

第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

1 健康福祉

～すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

<A 基本計画の目標>

関係機関・団体・ボランティアと地域住民との協働により、安心して暮らすことのできる豊かな地域社会づくりに努めます。

より身近な地域で、保健・医療・福祉が連携したサービス提供体制を充実するとともに、利用しやすい相談・情報収集提供機能の向上をめざします。

高齢者、障害者やひとり親家庭などが、地域で安心して暮らせるために、生活全般において多様な支援体制を整備し、自己選択・自己決定が尊重され、一人ひとりの権利が擁護される仕組みづくりを行うとともに、社会参加が促進されるよう市民・事業者・NPO等の理解を図っていきます。

少子高齢社会を明るく、活力あるものとしていくためには、市民一人ひとりが豊かな生涯を送れるように心身ともに健康な状態を保持していくことが大切です。今後、市民が主体的に健康づくりに取り組めるような環境の整備を進めていきます。

市民の急病などに対応するため、救急医療体制の一層の充実をめざします。

住宅施策と福祉施策の連携を進め、高齢者、障害者やひとり親家庭などが、安心して住むことのできる住宅施策を行うとともに、すべての市民が安心して出かけることができるよう、都市環境のバリアフリー化やユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりの推進をめざします。

高齢者や障害者等のさまざまなニーズに対応した在宅サービスと施設サービスの一層の連携と充実を図り、保健・福祉施設の整備・拡充をめざします。

地域全体による子育て支援を進め、次代を担う子どもが健やかに生まれ育つ環境を整備します。

子どもたちが健やかでのびのびと成長できるよう、すべての子育て家庭への支援の充実をめざします。

子どもたちが健やかに成長できるよう、児童福祉施設の環境を整備していきます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	35.2 %	36.1 %	33.4 %	34.7 %	33.7 %	↓

<C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【こどもみらい部】

寺分保育園民営化評価委員会で保護者及び法人を対象としたアンケートや定期的な現地調査を実施し、三者懇談会で調査結果の報告書の内容を説明しました。また、アンケートでは一定の満足度が見られ、現地調査では順調に保育運営がされていることを確認したことから、調査結果の報告書作成をもって評価委員会を終了しました。

自己評価



待機児童対策として、平成24年4月にたんぼぼ共同保育園梶原分園の本園化(梶原の森たんぼぼ保育園、80人定員)及びアワーキッズ大船の定員増(120人⇒140人)をすることが出来ました。また、平成25年4月に向け、鎌倉みどり保育園、プレップおおぞら保育園、オレンジの分園設置及びアワーキッズ大船の定員増の手続きを進めるとともに、玉縄地域の待機児童対策として、平成19年2月に5年間の暫定施設として開園した岩瀬保育園植木分園の管理運営を引き続き行いました。



【健康福祉部】

<p><医師会立産科診療所について -ティアラかまくら- > 市内で安心して出産できる場所として設立したティアラかまくらが、安定的な運営を行えるよう設立当時から引き続き財政的な支援を行っています。 ティアラかまくらが開設されたことにより、市民の市内分娩数割合がそれまで(平成19年度)の28%から50%前後まで上がってきており、開設した意義は達成されています。 今後は、ティアラかまくらは当面の目標分娩数を360件と設定していますが、平成24年度分娩数は310件で(前年度比較-5件)あり、目標分娩数の見直しなどを行っていきます。</p>	◎
<p><予防接種の充実> 予防接種法に基づく定期の予防接種及び予防接種法に基づかない任意の予防接種について、接種に関する制度や情報等の市民への周知に努めるとともに、接種率の向上につなげることで感染や重症化を予防し、市民の健康維持を図りました。</p>	◎
<p><特別ショートステイの取り組み> 平成24年度は、前年度までモデル事業として受け入れ施設を市内の介護老人福祉施設4施設で実施していたものを、市内の全介護老人福祉施設9施設及び全介護老人保健施設5施設の計14施設に増やし、認知症等の高齢者を介護する者が病気等により急に介護が出来なくなった場合の緊急的なショートステイの受け入れを実施しました。</p>	◎
<p><特別養護老人ホームと老人保健施設の整備> 80床規模の特別養護老人ホームの平成26年度中の開設に向けて、公募により事業法人を決定しました。</p>	○
<p><成年後見制度の充実> 鎌倉福祉まつりなどを通じて、成年後見制度の周知を図りました。 かまくら成年後見制度連絡会を4回開催し、地域包括支援センター等相談を受ける機関と弁護士会、司法書士会、社会福祉士会等との連携の強化を図るとともに、事例検討を通じて相談を受ける機関の資質の向上を図りました。</p>	◎
<p><小児医療費助成> 小児医療費助成事業は、平成21年10月に小学4～6年生(所得制限付き)を新たな助成対象に加え、平成22年度以降、引き続き助成を行いました。</p>	◎
<p><障害者福祉計画の推進> 障害者福祉計画推進会議及び障害者福祉計画推進委員会を開催し、「鎌倉市障害者福祉計画推進状況報告書」を作成しました。また、第2期障害者基本計画及び第3期障害者サービス計画の推進を図りました。</p>	◎

前年度当初目標に対し、◎=80%以上○=50%以上△=30%以上×=30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【こどもみらい部】

・子育て支援策の充実度が平成27年度目標値を達成しているとはいえ、低い値である。子どもに関する施策に一層力を注いで頂きたい。



鎌倉市の子育て支援に関する施策は「鎌倉市次世代育成きらきらプラン」に基づき推進しています。このプランにおいては、市民ニーズ等を把握しながらPDCAサイクルによる施策の継続的な改善を図ることを年度ごとに行っており、今後も施策全体の改善や向上を図ってまいります。

・保育所の待機児童への対策は大変努力されているが、保育所に入所すれば幼き子どもの健康と福祉は維持できるであろうか。根本から鎌倉の子育てのあり方を考えて事業を推進して頂きたい。

鎌倉市の子育て支援に関する施策は「鎌倉市次世代育成きらきらプラン」に基づき、「子どもが健やかに育つまち、子育ての喜びが実感できるまち、子育て支援を通してともに育つまち・鎌倉」を基本理念に掲げ、この実現に向けて推進しているところです。このプランの中で待機児童対策は重要な取組の一つとなっていますが、他にも子どもや親子の居場所や、安全・安心を感じられる環境を作るなど地域の人々の理解と協力のもとに社会全体による子育て支援を推進してまいります。

・需要創造型である保育園の整備に関して中長期の方針を確立すべきである。(待機児童ゼロは不可能と考える。)

認可保育所受入れ数の拡大については、「鎌倉市次世代育成きらきらプラン」において、数値目標を定めているところです。保育園の整備につきましては、今後、国から基本指針が示され、平成26年度に策定予定の「子ども子育て支援事業計画」の中で、保育所の整備に関しても方針を示していくことになると考えています。

・「家庭的保育事業」について、平成23年度は保育士資格を有する保育士の応募がなかったとのことだが、今年度は人材の確保を実現して頂きたい。

「家庭的保育事業」については、家庭的保育者の応募があり、平成24年7月から事業を開始しました。引き続き、研修等を実施し、人材の確保を行い、事業の拡大に努めてまいります。

・サービス提供体制をより充実していくことや利用しやすい相談・情報収集、提供機能の向上が必要である。

市民等利用者の意見を聴くことなど、実態把握に努め、サービス提供体制の充実や相談・情報収集、提供機能の向上を図ってまいります。

【健康福祉部】

・ティアラ鎌倉での分娩数を当初360/1300=27.7%としながら、結果的には314/1166=26.9%であり、出生率以上に減少しているということになる。その原因が何であり、どの様に対処すべきかを検討する必要があると考える。



市民の全出生数に対するティアラかまぐらの全分娩数の割合は、平成21年度235/1286=18.3%、22年度322/1288=25.0%、23年度315/1166=27.0%と徐々に増加していますが、今後の動向も注視していきます。ティアラかまぐらは、まだまだ知名度不足であると考えており、PR不足であると認識しています。今後とも、ティアラかまぐらのサービスの向上を図る中で、鎌倉市医師会とPR方法等について引き続き協議検討しながら対応していきます。
また、開設時の目標分娩数360についても、出産数の動向や出産する方の意向等を踏まえてさらに精査し、今後のティアラかまぐらの運営に役立てていきます。
なお、23年度分娩数を当初314としていましたが、その後、315であった旨、鎌倉市医師会から訂正報告を受け、ティアラかまぐらでの出産数は最終的には315となることを申し添えます。

・成年後見に関して、法人後見の道を模索すべきである。

法人後見については、NPO法人が市と連携して法人後見を行っています。今後成年後見制度の必要性が高まっていくことから、増加するニーズに対応するため鎌倉市社会福祉協議会と法人後見について協議を重ねてまいります。

<E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

【こどもみらい部】

計画に沿って着実に事業を進めています。(平成24年度において、主たる課題は特にありません。)

※未達成の理由<支障となった理由>

【健康福祉部】

<医師会立産科診療所について-ティアラかまくら->

改めて市民ニーズから見たティアラかまくらでの目標分娩数の見直しを行います。

<成年後見制度の充実>

高齢者や障害者、その家族への成年後見制度についての周知・理解が十分ではありません。また、成年後見制度に関する相談が複雑化・増加しているため、相談機能の充実を図る必要があります。

<小児医療費助成>

平成21年度に新たな助成対象を拡大し、子育て家庭への支援の充実を図っていますが、1人当たりの医療費が毎年3～4%の増加傾向にあり、安定かつ持続的な制度の運営をめざすためには、助成内容など制度のあり方を検討する必要があります。

※未達成の理由<支障となった理由>

<医師会立産科診療所について-ティアラかまくら->

平成23年度に近隣市に産院等の移転や新設があり、そちらで出産された方も増えていることも影響していると考えられる。

<F 今後の展開(取組方針)>

【こどもみらい部】

鎌倉地域の公立保育園の民営化に係る保護者説明会を開催するとともに施設整備について検討を行っていきます。

待機児童の解消にむけて、新園の設置や定員増などに取り組んできましたが、それらの施策を上回る保育ニーズの増加に伴い、平成25年4月1日現在の待機児童数は現在も40人以上で推移しています。特に鎌倉地域の待機児童は大きな課題となっていることから、今後も、引き続き、待機児童の解消に向け、施設整備や既存の施設の定員の見直しを図るとともに、国や神奈川県意向を汲みながら認定保育施設の認可化に向けて、支援してまいります。

【健康福祉部】

<医師会立産科診療所について「ティアラかまくら」>

分娩数を増やすため知名度を上げる工夫や活動は引き続き行っていきます。

この他に増床による分娩数の増加を考えることができますが、今後、市内で開設が予定されている産院もあることから、十分に注意しながらティアラかまくらが堅実な運営を継続していけるよう、目標分娩数や運営経費に見直しを鎌倉市医師会と協議し、適切な支援を行っていきます。

<特別ショートステイの取り組み>

平成24年度から市内のすべての短期入所施設(14箇所)で実施していますが、介護者の負担軽減へ向け、今後も利用者への制度の周知に努めていきます。

<特別養護老人ホームと老人保健施設の整備>

特別養護老人ホームの着実な整備に向けて、法人に対し指導・監督を行っていきます。

<成年後見制度の充実>

増加し複雑化する成年後見制度へのニーズに対応するため、鎌倉市成年後見センター設置に向けて検討を行います。また、増加する成年後見制度の利用に対応するため、鎌倉市社会福祉協議会をはじめ様々な機関と法人後見等制度の充実に向けた体制を作っていきます。

<小児医療費助成>

小児医療費助成については、子育て支援策として、安定かつ持続可能な制度の運営を、今後も検討していきます。

<障害者福祉計画の推進>

新たに始まった第2期障害者基本計画及び第3期障害者サービス計画の評価方法を確定し、計画の適切な進行管理を行います。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
市民1人当たりの 平均医療費(一)	国民健康保 険加入者1 人が1年間 にかかった 医療費の平 均金額	217,856 円	289,885 円	299,333 円	308,669 円	317,620 円		
	国が医療費適正 化施策を講じた 場合の平均医療 費	217,856 円	277,500 円	285,044 円	290,904 円	295,093 円	245,000 円	277,000 円
介護認定者数の累 積合計(一)	介護予防給 付を受けた ことにより、 介護認定の 進行を阻止 できた人数 の累積合計	7,349 人	7,896 人	8,115 人	8,327 人	8,366 人		
	介護予防給付を 行わなかったとき の介護認定者数	7,349 人	7,614 人	8,000 人	8,463 人	9,036 人	7,928 人	9,048 人
保育園待機者数 (一)	公立園・民間園に入りたく ても入れない対象児の数	33 人	44 人	57 人	44 人	42 人	0 人	0 人
健康診断受診率 (十)	ここ1年以内に健康診断を 受けたことがある市民の 割合	76 %	76.1 %	77.8 %	77.8 %	76.4 %	77 %	80 %
高齢者福祉サービ スの充実度(十)	高齢者福祉サービスが充 実していると感じる市民の 割合	39.6 %	42.9 %	42.4 %	44.8 %	48.6 %	42 %	44 %
子育て支援策の充 実度(十)	子育て支援策が充実して いると感じる市民の割合	31 %	33.1 %	34.9 %	36.6 %	34.7 %	33 %	36 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	41,444,527千円	40,710,718千円	44,299,848千円	46,478,550千円	48,991,553千円			
	(国・県)	16,792,092千円	16,821,664千円	20,010,561千円	21,168,538千円	21,523,949千円			
	(負担金等)	15,146,086千円	15,229,378千円	15,557,078千円	16,207,781千円	17,211,532千円			
	(一般財源)	9,506,349千円	8,659,676千円	8,732,209千円	9,102,231千円	10,256,072千円			
	人員配置数	270.0人	269.5人	261.6人	250.9人	257.2人			
	人件費 (B)	2,517,481千円	2,471,831千円	2,302,158千円	2,211,429千円	2,100,343千円			
	総事業費(A+B)	43,962,008千円	43,182,549千円	46,602,006千円	48,689,979千円	51,091,896千円			
	対前年比		98.2%	107.9%	104.5%	104.9%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・複雑、多様化する健康福祉ニーズに対して、高齢者福祉や障害者福祉、子育て支援など、様々な取組で対応している。(ティアラ鎌倉の継続的な市内分娩率の向上、障害者福祉政策の推進、特別ショートステイの取組等)
- ・待機児童対策として保育所の確保に努力されている等、実績を上げている。
- ・特別ショートステイ事業の拡大は年をとっても住みやすいまちとして重要な取組である。
- ・寺分保育園を民営化し順調に運営されている。寺分保育園民営化評価委員会で保護者及び法人を対象としたアンケートや定期的な現地調査を実施する等、情報収集及び情報交換により、実際の利用者ニーズを把握している。



課題・提言

- ・市民満足度が得られない理由を探す必要がある。情報不足なのか、地域福祉との連携が悪いのか、多角的な分析が必要である。
- ・高齢者福祉サービスの充実度が既に目標値に達している。一方、子育て支援策は目標値が高齢者福祉よりも低いにも拘らず目標値近傍である。少子高齢化社会の世代間格差の是正を検討すべきである。
- ・健康な高齢者が健康を維持することがこれからの高齢社会では重要になると考えられるが、それに関する施策の展開を、福祉部門でも取り組んでいく必要がある。
- ・待機児童の解消に向けた継続的対策が必要であるが、待機児童解消は量の増大ではなく、子どもの幸せに繋がるような保育所づくり、質の高い保育の提供につなげていく必要がある。
- ・ティアラ鎌倉による市内分娩率のさらなる向上が求められる。なお、ティアラかまぐらの運営について、利用率(数)を上げるために「どのような取組を行うのか」「結果どうなったのか」を記載すべきである。
- ・成年後見制度について、市民後見人が職務を安心して行える体制の整備や、資質向上のための研修等の取組が見受けられない。
- ・日本では、鎌倉市における「あおぞら園」のような障害児施設の民営化が進んでいる。鎌倉でも検討が必要である。
- ・「PDCAサイクルにより施策の継続的な改善を行って行く」とされており、来年度はCの結果、どのようなAを行ったかについて記載すべきである。
- ・「推進した」等については、何をどう行うことによって推進したのか、より具体的に記載すべきである。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、良好であった。